

平成31年 4月4日 (木)

第31回 肩膝リハビリ研究会

in アクロス福岡

発表者：坂井 涼平 高島 崇義

座長：伯川 広明

○肩の発表演題

腱板断裂の夜間痛は
保存療法により変化するか

リハビリテーション部

坂井 涼平



【印象記】

腱板とは、肩関節に存在する4つからなるインナーマッスルであり、腕を上げる為に重要な筋肉です。それらの筋肉の腱が切れてしまうと、腕を上げる際に痛みや脱力感などの症状が出ます。今回の研究から、当院の腱板断裂の患者様は夜に痛みが強くてもリハビリをすることで、痛み、可動域、筋力が約3ヶ月で大きく改善している人が多い傾向でした。腱板断裂の夜の痛みの強さは人それぞれです。しかし、夜の痛みは寝る時の姿勢や日常生活動作などを少し工夫することで軽減することが多いです。今回の研究を基に、患者様の治療に還元していきたいと思います。

○膝の発表演題

TKAの術前のTUGが術後の
日常生活動作に与える影響

リハビリテーション部

高島 崇義



【印象記】

今回、当院で膝の人工関節置換術（TKA）を手術された患者様の手術前の歩きの状態と手術後の日常生活の関係性について発表させていただきました。手術前の歩きの状態が良い程、手術後の日常生活が良いという結果になりました。この結果のもと、今後TKA患者様の状態を術前から詳細に把握した上で、リハビリテーションを実施していきたいと思います。